

2016 年度日本認知言語学会奨励賞授賞者報告

2016 年 9 月 27 日

日本認知言語学会
会員各位

日本認知言語学会
会長 辻 幸夫
日本認知言語学会奨励賞選考委員会
委員長 森 雄一
委員 楠見 孝
委員 早瀬尚子

日本認知言語学会第 17 回全国大会における学会奨励賞選考結果につき、下記の通り報告いたします。なお、授賞者の並び順は 50 音順です。

記

授賞者名（所属）：大神雄一郎氏（大阪大学[院]・日本学術振興会特別研究員）

授賞発表名：「近づいてくるクリスマス」と「やってくるクリスマス」—時間メタファーにおける”接近”の表現と”来訪”の表現について

授賞理由：本発表は、日本語時空間メタファーの成立基盤となる概念について、①「クリスマスに近づいていく」など【時間軸上での主体の移動】、②「クリスマスが近づいてくる」など【主体の移動に伴う眺望の変化】、③「クリスマスが（やって）くる」など【擬人化された時間の訪問】の 3 分類を提案したものである。日本語時空間メタファー研究に新たな視点をもたらしたこと、論旨が明確で分かりやすく力強い発表であったことについて、審査員から高い評価を得た。今後はメタファー理論へのより大きな貢献がなされるよう期待する声もあった。

以上のことにより、日本認知言語学会奨励賞に相応しいものであると判断した。

授賞者名（所属）：堀内ふみ野氏（慶應義塾大学[院]・日本学術振興会特別研究員）

授賞発表名：響鳴からみる子供の前置詞の使用—CHILDES を用いた観察から—

授賞理由：本発表は、子供の英語前置詞の使用事例を対話統語論の枠組みを用いて分析し、その習得過程を考察したものである。子供は親への「響鳴」を通して前置詞を使い始めること、「響鳴」の単位が習得段階に応じて拡大すること、拡大には親からの「響鳴」が関わると考えられることを論じている。先行研究を的確にふまえ、議論を説得力のある形で構築し、分かりやすく発表されたことについて、審査員から高い評価を得た。また、今後の発展に期待が持てる発表であるという点でも評価がなされている。

以上のことにより、日本認知言語学会奨励賞に相応しいものであると判断した。

以上